

ストレスチェック結果に基づくパフォーマンス指標

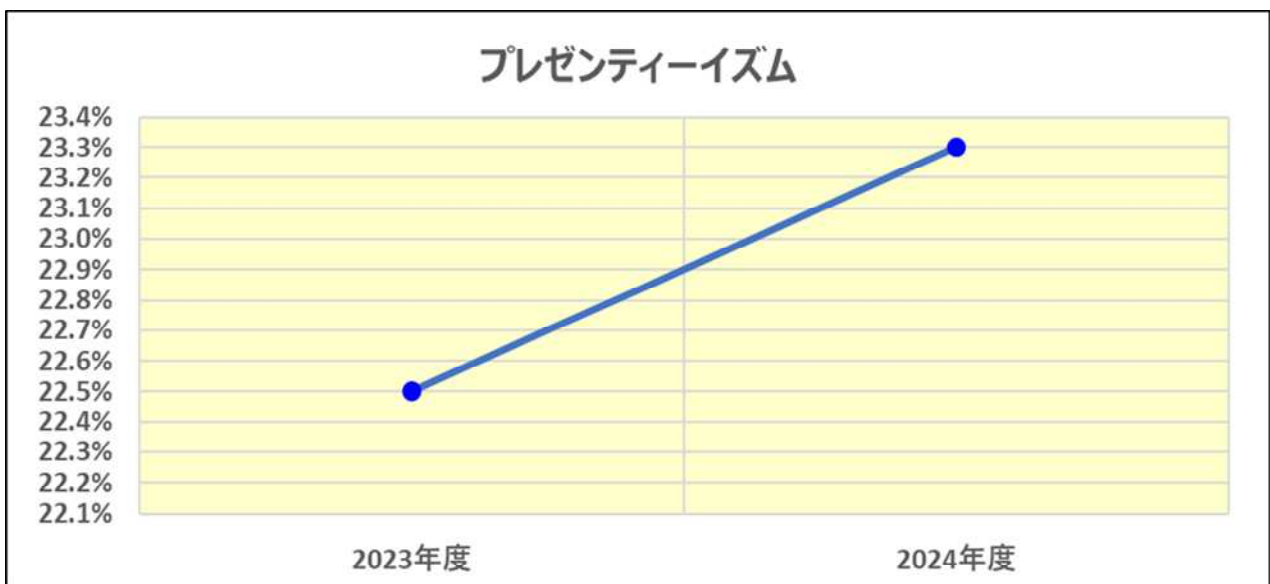
メンタルヘルスの取り組みとして、ストレスチェックを継続的に実施しており、2024年度の回答者155名、回答率は、97.5%（2023年度：回答者128名、回答率100%）となっています。

測定方法：新職業性ストレス簡易調査票（短縮80項目版）

ストレスチェックと併せて従業員アンケートを実施し、SPQ（東大1項目版）でのプレゼンティーイズムや「昨年1年間に、自分の病気やけがなどの体調不良で何日仕事を休みましたか」という質問でのアブセンティーイズムの測定を行っています。

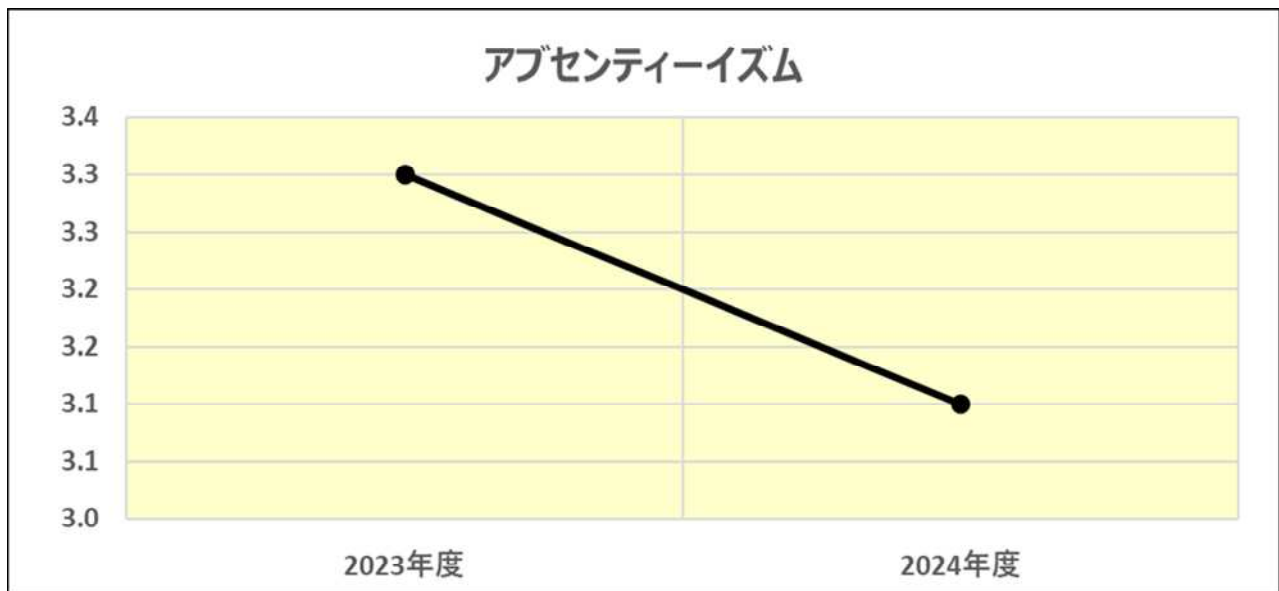
【プレゼンティーイズム】

2023年度から2024年度にかけてプレゼンティーイズム（出勤しているのにも関わらず、心身の健康上の問題が作用して、パフォーマンスが上がらない状態）の損失率は23.3%（2023年度：22.5%）と0.7%上昇し、4人に1人が何らかの不調を抱えている現状です。今後不調の要因を解決する各種健康施策を継続的に実施し、プレゼンティーイズムの改善に努めていきます。



【アブセンティーイズム】

2023年度から2024年度にかけてアブセンティーズム（心身の体調不良が原因による遅刻や早退、就労が困難な欠勤、休職など、業務自体が行えない状態）による損失日数は、2024年度は、平均3.1日（2023年度：3.3日）と2023年度に比べて減少しています。引き続き、社員一人ひとりの健康意識の向上やさらなる健康増進に向け取り組んでいきます。



【ワーク・エンゲージメント】

新職業性ストレス簡易調査票（いきいきプロフィール数値（偏差値））を利用し、算出しています。結果においては、53.6%（2023年度：52.3%）と上昇がみられますが、さらに水準の向上に向け健康施策と関連した取り組みを行い、社員と会社との良好な信頼関係を築き、ワークエンゲージメントのさらなる向上にむけ取り組んでいきます。

